

敬愛短大附属幼稚園だより 3月号

年長組の皆様は16日(火曜日)に第48回目の卒園式を迎えます。まだ早いですが、卒園おめでとうございます。入園したお子さんが他のお友だちと仲良くやっつけていけるだろうかと不安に思いながらも、お誕生会で元気にお返事をする様子や幼稚園で元気に遊ぶ様子などからお子さんの成長を感じ、保護者の皆様もホッとされたのではないのでしょうか。

幼稚園では子どもたちの成長を確かなものにするために着実に体力をつけるとともに健康面の配慮を最優先にし、様々な実体験を通して楽しく幼稚園生活が出来るように遊びの工夫をしました。

▷大事なことは、私たちが“いたずらっ子”の気持ちを常に忘れない事◁

これ何だと思いませんか？



附属幼稚園の先生に園内研修で科学的環境づくりの場を考えた際に出てきたものの材料になります。また、本年度からは3年計画で「科学的環境づくりと保育のあり方」について園の研究が始まっています。

岩手県の観光地として有名な厳美溪(げんびけい)という渓谷にある「空飛ぶだんご」という渓谷の対岸にあるお店に向けて籠に代金を入れて合図の板をたたくと籠が対岸のお店に向かってロープで引かれて空中を登って行き、しばらくしてお茶とだんごがまたロープに沿って空を飛ぶようにこちらに届きます。

幼稚園にも園庭の空中を物がシューッと飛ぶように動く物があつたら子どもたちが喜んで遊ぶだろうと希望が出ましたので、今回も実現させます。

写真の解答ですが、これは魚釣りに使うテグスでピーラインというもので、細いものですが200kgの力で引いても切れない丈夫なものです。お願いしていた釣り好きの知人から届けていただきました。このテグスを園舎から園庭に向けて傾斜をつけて50mほど張ります。

さて、附属幼稚園では何が飛ぶことになるでしょう。楽しみですね。

この他にも既に設置が完了しているホースを1階部分に20mほどの距離を曲がりながら張り巡らしたものと、1階と2階の間で張り巡らしたものがあり、2人でお話のできる「もしもし電話」(名称検討中)や、これから設置する定滑車と動滑車を組み合わせた子どもを持ち上げることもできるエレベーターがまもなく完成します。

子どもたちには籠に入れたものを持ち上げて楽しんでもらうことにしています。

これらは2030年までの長期ビジョンで本年度策定した「幼稚園まるごとミュージアム」の具現化された科学的環境になります。

この時期は、子どもにとって安心の出来る場で元気よく友だちと仲良く遊ぶことが成長にとってとても大切です。子どもたちの成長を見守り、しっかりと援助していくことが本園の職員が行っていることです。そのエネルギーがどこにあるかと言えば、「大事なことは、私たちが“いたずらっ子”の気持ちを常に忘れない事」にあります。科学だけに限らず、文化的な事も道徳的な事もワクワクするような潤いのある気持ちにつながるようにするのが専門職としての醍醐味です。

本園の先生方の教育の原点でもあり、母校でもある千葉敬愛短期大学はそうした保育者を専門的に養成する場です。その母校は2024年に敬愛大・敬愛学園高校のある稲毛キャンパスに現キャンパスのある物井から戻ります。長い歴史を持つ千葉敬愛短期大学は本年度70周年を迎え、県内に多数の小学校の先生と保育者を輩出しています。皆様のお子様はそうした先生方と大切な時期を過ごしたことを誇りに思っただけであれば幸いです。まもなく年中組の子どもたちと幼稚園の先生方が参加した手話入りの曲「手をつなごう」が各方面に配信されます。ご期待ください。

(園長 杉山清志)